

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600192		
法人名	社会福祉法人愛生会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	千葉県八千代市緑が丘2-17-1		
自己評価作成日	令和8年2月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aiseien.or.jp/nagomi_group.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和8年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染の影響も少なくなっている中、外出行事や家族との交流など、以前の取り組みを復活させている。面会や外出・外泊も制限なく行っていた体制として、ご本人やご家族が適切な距離感の中で、交流機会を持てるよう支援している。併設の小規模多機能とも協力して、行事・イベントも行い、夏祭りでは100人以上が施設に集まり楽しんでいただくことができた。楽しんでいただくための体力作りとして、毎日の体操時間にはスタンプカードを作り、参加意欲を高めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、近くに商業施設もあり幹線道路沿いで訪問や買い物にも便利な立地。併設する系列小規模多機能型施設等と連携し、行事開催、避難訓練・備蓄、研修、昼食の準備など効率的に運営されている。理念を共有し、家庭的な雰囲気の中、利用者本位のサービスを提供し家族アンケートでも高い評価を得ている。医療面では、月2回の当施設専属主治医の往診と月4回の訪問看護との連携体制や、週1回の提携歯科医の往診体制も充実している。コロナ禍後も感染症対策を継続しつつ、ご本人やご家族が適切な距離感の中で交流機会を持てるよう支援しており、ご家族同伴の外泊外食やスタッフによる外出支援も柔軟に対応している。毎月発行しているご家族への情報誌「なごみだより」での施設運営やレクリエーションの情報提供と併せて、利用者一人ひとり個人向けの写真集(A4版1ページ)も毎回お届けしており、ご家族の安心感・信頼感を高めている。「月に一度写真やコメントを送ってくれてとてもありがたい。忙しい中、頭が下がります。イベントや外出なども企画してくださるので本人も家族もうれしく思ってます。」と、ご家族のアンケートコメントも届いている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作り上げた理念を共有している。	理念は、どういう施設にしたいかというキーワードを出し合い職員全員で作り上げ実践に活かしている。認知症対応型でお元気な方も多いので、その特性を活かしてご支援している。レクリエーションとか体操や運動で、皆さんの笑顔や生活を支えようという内容になっていてそれがもうある程度自然になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃に参加したり、近隣保育園との交流を実施するなど、コロナ前の状態に徐々に戻ってきている。	感染症予防対策に力を入れつつ、地域行事には積極的に参加している。町会清掃等へも継続参加しており、生き生きと取り組んでいる。オレンジカフェへの人的協力を通じて地域の方の介護・認知症に対する困りごとに積極的ににかかわり、地域唯一の施設として専門性を活かした貢献をするよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の外に掲示板を作り、活動内容などを掲示している。Instagramによる発信にも取り組みを開始した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や市の介護保険相談員の巡回を通じて、サービスの実際を見て頂き、指摘事項について改善実施も行っている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、家族、職員で2カ月毎にリアル開催している。市の介護保険相談員の巡回を通じてサービスの実際を見ていただき、指摘事項について改善実施している。衛生管理の中で、階段の踊り場に一時的に物が置かれ指摘を受けて改善したなど、施設運営改善に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に取り組むことなどは、行っていないが情報の確認などで、連絡をしている。	市(長寿支援課)との協力関係構築にも積極的に努めており、法務の専門性を地域で生かしてほしいといった要望や困った際に協力できる体制にある。地域包括支援センターとも良好な関係を築いている。どちらも、各種手続きのオンライン化が進み便利になってきたが、直接出向いて相談しながら進める場面を通して、関係強化を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関の施錠は行っていないが、夜間は防犯上行っている。また、身体拘束については、勉強会などで互いのケアについて話し合っている。	身体拘束についての指針に基づき身体拘束廃止委員会を年2回開催、事前アンケートを通して年に3回勉強会を実施し全職員積極的に取り組んでいる。外国人スタッフには丁寧に説明し、理解を得ている。夜間の玄関施錠については、防犯を維持しつつ外へ出たいという利用者さんには不安を取り除く声掛けをして寄り添い慎重に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を作り、お互いに虐待が見過ごされないように行っている。		

2/9

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の理解などは、話す機会などは無く、一部の職員が解っているので、今後は、話し合いの機会を作るようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解除については、特に長期入院をするようなことになったときには、家族と病院の状況などを確認しながら行っている。また、契約時に一か月以上の入院になる場合などの説明などを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などで個別に意見を聞く対応を取っている。また、コロナで中断していた家族会も令和6年に再開したので、定期的に集団での話をする機会を設けている。	毎月の連絡の中で施設や利用者さんの状況はお伝えしているが、家族からの要望等は、訪問時や電話連絡時に聞きとり運営に反映させている。また、LINEなどのオンライン連絡については、事務的なやり取りが多く、個別にお薬などの相談が来れば対応している。スタッフ間では、グループLINEを使用して、スピード感をもって相談や連絡をとり合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットごとに会議などを行い、職員の意見などを聴収している。	職員会議は、主任リーダーが主に会議を進めるが、ベテラン職員の意見が多くなってしまうが、職員への声掛けなど意見が出やすい状況を作っている。また、多くの職員の意見を聞きたいときは、紙アンケートを採用しており、夜勤者には事前に議題を知らせ、意見を聞くようにしている。より多くの職員の意見がサービスに反映できるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価・面談を通じ役割などを検討する機会を設け、モチベーション維持に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コミュニケーション能力向上に特に力を入れ、研修受講のスケジュールを組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で、グループホーム部会を2か月に1度行い、互いに情報の交換などを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子などを常に確認しながら、傾聴を行い要望に応えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の様子を伺うために、事前調査を行いご自宅で困っていることなどを伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の小規模多機能など、在宅を継続する手段を知らずにグループホーム入居を希望された方に、情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方にも食事準備や洗濯物を畳んでもらい、自宅で過ごしていた時と変わらない生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、毎月お便りをだしながら、日々の生活などを伝え情報の共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人など、家族以外の面会受け入れあり。	感染症予防体制の強化や外出規制など行動制限がある中、馴染みの人との交流については柔軟に対応している。毎晩電話を掛けている利用者、会いたくない電話で充分という方もいる。利用者の希望するレクリエーションも出来るだけ企画し、豊富なイベント活動も実施出来ている。また、家族とのLINEネットワークを構築し利用者の様子を動画配信したり、入居者に寄り添った対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が、関わりを持てるようにイベント等を多く作り、関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約解除になった方で、退院後の生活についての相談を受けた際に、情報提供など行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方については、ご家族や職員同士のミーティングなどにより、一人ひとりの希望などを取っている。	日常の何気ない会話を大切にし、意思疎通を図ることによって一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。入居者の生活歴や家族との対話から個々の人柄や価値観を深く理解し、画一的ではない本人本位の支援に努めている。生活の継続性を重視し、馴染みの品に囲まれた暮らしを支える姿勢を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、事前調査に行き、個人の情報を確認して、職員へ周知していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報の共有を行いながら、日々の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となって、ご家族や他の職員から情報を共有して、介護計画に反映している。	毎月のユニット会議にて全利用者の状況を共有し、多角的な視点でケアのあり方を検討している。計画作成担当者が現場の介護を兼務する利点を活かし、状態変化に応じた臨機応変な計画見直しを実践。家族へは策定経緯を丁寧に説明して合意を得るなど、意向を反映した現状に即した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌以外に、個人記録を取って介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物支援などで家族の協力が難しい方に対しては、近隣店舗での買い物を支援したり、インターネット購入の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が遅れており今後の大きな課題となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診を行う前に、ご家族へ電話連絡を行ってから受診をする。また、受診後もご家族の立ち合いが無い場合は、連絡を行う。	かかりつけ医に受診時は家族の付き添いを基本としつつ、日々の様子をまとめた資料を提供し、必要に応じ職員が同行するなど柔軟に支援している。受診結果は家族から聞き取り、契約医の往診時に共有する仕組みを構築。往診には訪問看護師も同席し、専門的な知見を交えた密な連携により適切な医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携は、どの職員でも取れる様に指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りは、日常的には行っていないが、退院時や長期入院などの時は、入院先への連絡は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていないので、先の予測を踏まえ、必要時に法人内の特養へ移動できるよう、特養相談員との情報共有を行っている。	入居時に延命治療等に関する意向を確認し、意思の把握に努めている。看取りは行わない方針であるが、重度化を見据えて早い段階から家族と協議を重ね、不安に寄り添っている。状態変化に応じて法人内の特別養護老人ホーム等への円滑な移行を提案するなど、継続的な支援体制の確保を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を実施し、事故発生時の対応方法を実践した。また、訪問看護との連携で体調変化時の対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法検討や訓練を通し身に付けているが、地域との協力体制構築は滞っている。	BCPに基づき、非常通報の模擬訓練や消防署との連携確認を定期的実施している。避難訓練では、シーツの担架代用やマットを階段に敷くなど、2階・3階からの実践的な搬送技術を全職員で体験。安否確認にはグループLINEを活用した模擬訓練を行うなど、有事の即応体制と実地訓練を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一部、言葉が不適切になる職員もいるので、都度注意したり、リーダークラスで共有し指導方法を考えている。	利用者を「お客様」と表現し、馴れ合いを防ぐ丁寧な言葉遣いを徹底している。身体拘束廃止の視点から「待って」等の行動制限を控え、理由を添えた敬語での声掛けに努めている。入浴後の更衣の選択や、居室への愛用品の持ち込みを推奨するなど、個人の誇りとプライバシーを尊重した支援を実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりに、行きたい所や行いたい事などの希望を取っている。誕生日会では食べたい物のリクエストをお聞きし、提供している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイミングに応じ職員の都合でお待たせすることはあるものの、基本的な生活のペースは尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容が月2回あり、カットだけでなく、染めたりパーマをかける希望に合わせて対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器準備や簡単な盛り付けなど、希望される方には一緒に行っていただいている。	日常的に手作り料理を添え、栄養補助食品も活用して健康と食の質を維持している。特筆すべきは代表者や職員による趣向を凝らした食のイベントである。屋台ラーメンや屋外での焼き鳥など、五感を刺激する演出が利用者の食欲と喜びを引き出しており、楽しみを重視した多彩な食の支援を実践している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの一日の記録を作成して、食事量や水分量などを把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、歯と口腔内の様子を確認している。訪問歯科の先生にも、毎月口腔ケアの指導を受けている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調が悪い時以外は、トイレにて排泄介助を促している。一人ひとりトイレの確認表などを使って把握している。	ユニットごとに配備されたタブレット端末を活用し、排泄記録や水分摂取量をリアルタイムで職員間共有している。蓄積されたデータを分析し、一人ひとりの生活リズムや排泄パターンを把握することで、適切なタイミングでのトイレ誘導を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に最終排便などを確認して、オリゴ糖なども活用して排便の調整を行っている。水分を多く摂れるよう、毎日イオンゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回入れるように、入浴リストを作り入って頂いているが、職員の都合などにより入って頂いている事有。	脱衣所へのエアコン設置による室温調節や、入浴剤の活用、風呂上がりの飲料提供など、快適な環境作りに努めている。何より、入浴後の「顔色が良くなった」等の肯定的な声掛けを大切にしており、清潔保持に留まらない心身の充足感や喜びを引き出す支援を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせ、安眠できるように環境を整え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員同士お互いに声を掛けあい、誤薬が無いように努めている。また、体調の様子などを担当医と薬剤師と連携を取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などを、把握して一日を満足して頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事などは前もって計画を立て、実行しており、計画段階でご希望を聞いている。その日の希望での実施は、人員体制的に不可能に近い。	毎月、利用者の身体状況に合わせた徒歩やリフト車による外出機会を確保している。外出時の生き生きとした様子は、個人別のLINEや全体向けSNSを通じて即座に家族へ共有されており、安心感と信頼関係の構築に寄与している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をお預かりしているご利用者については、買い物時にお金を渡して、物を購入できるようにしている(※体制を整えているが、現状では対象になる方がいない)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された方には、電話を部屋に置いて自由に掛けてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁などには、活動写真や季節ごとの壁面工作などを飾り、目でも楽しんでいただけるようにしている。	日当たりや音量への配慮に加え、利用者同士の相性や感情起伏を考慮した座席配置を行い、穏やかな空間を整えている。カーテンを閉めてしまう行為も否定せず、本人の心理に寄り添いながら後で整えるなど、個別のこだわりを尊重している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座席配置はなるべく気の合う方同士が近くなるよう配慮している。ソファを共用スペースに置き、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお部屋は、家で使っていた衣類や家具などを持って来てもらい過ごして頂いている。	居室担当者が個別の意向を汲み、使い慣れた家具や好みの品を活かした環境作りに努めている。冷蔵庫や趣味のスター、猫の写真、愛着のある人形等を飾るなど、自宅での暮らしの継続性を重視。自ら模様替えを楽しむ姿も否定せず、本人のこだわりや主体性を尊重した居心地の良い空間を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立心を持って、生活が送れるように職員一同心掛けている。		